

平成30年度 甲斐市立竜王南小学校 自己評価書

平成31年2月4日（月）作成

校長 「金子 浩」

記述者 職名（教頭）「進藤 雅一」

学校教育目標

「楽しい学校（楽校）の創造ーやる気 こん気 げん気ー」

学校経営目標

- ・知・徳・体の調和のとれた「生きる力」をはぐくむ信頼される学校づくり
- ・家庭・地域・社会と交流・協力を図る開かれた学校づくり
- ・楽しい授業・居心地のよい集団・けじめのある生活・安心安全な環境を追究した活気ある学校づくり
- ・特色ある教育活動を展開する魅力ある学校づくり

学校経営の基本

- ① 「生きる力」をはぐくむ，教育課程の編成と実施
- ② 「確かな力」をはぐくむ，わかって楽しい授業の創造
- ③ 思いやりの心や情操を培い，「豊かな心」をはぐくむ，居心地のよい学校（集団）の創造
- ④ たくましく生きるための「健康な体」をはぐくむ，健康・安全な生活と環境の創造
- ⑤ 「信頼される開かれた学校づくり」の推進

1 全体評価

自己評価結果は、昨年度同様に高い水準にあると言える。

I「学校教育目標・学校経営について」、II「学校運営について」、III「学習指導について」、IV「生徒指導について」、V「地域との連携について」、VI「学校の特色について」の全項目で肯定的評価（A・B）が90%を越えている結果となった。設問別に見ると、54問中33問が肯定的評価で100%となっている。「ややそう思わない」Cをつけた設問が19問みられ、「そう思わない」Dにつけた設問が4問みられた。全体的に見て高い自己評価ではあるものの、昨年度よりも否定的評価が増えていることも注視したい。

また、児童アンケートについては、23問中（勉強時間・就寝時間・読書時間の設問以外）21問で肯定的評価（A・B）が80%以上を占めている。このことから、児童が概ね満足していることがうかがわれる。特に「先生はよく勉強を教えてくださいか。」については99.4%と肯定的評価の最高値であり、昨年度より上昇していることも挙げられる。

一方、「授業中に意見や質問を言っていない。」「家の人と学校での様子を話していない。」「今住んでいる地域の行事に参加していない。」については、D評価回答の児童が5%以上おり、昨年度と同様の結果になっていることにも注視したい。

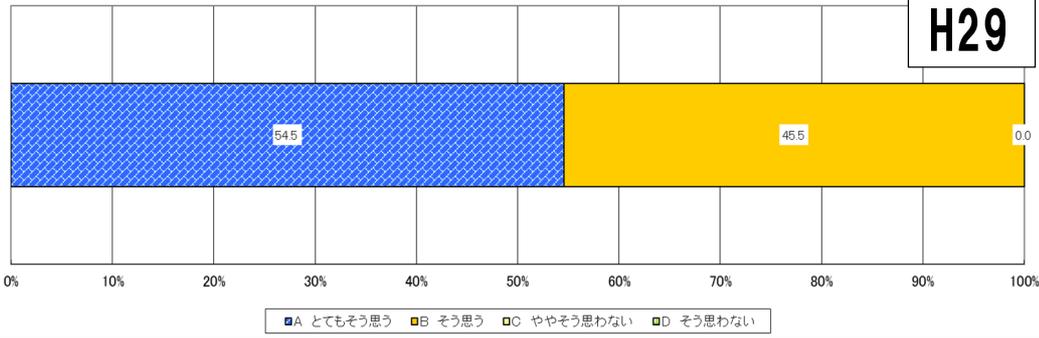
2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）

I 学校教育目標に関して・学校経営について

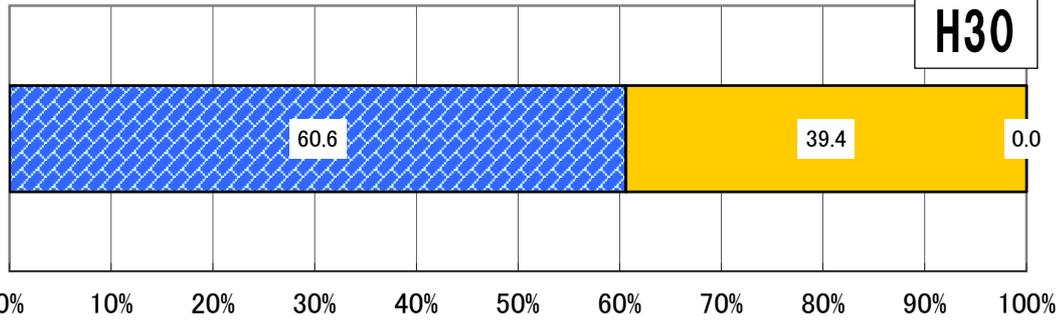
達成状況
学校教育目標・学校経営についての自己評価8問中5問で肯定的評価（A・B）が100%となった。特に、「5 あなたの学校は、P→D→C→Aサイクルを生かした教育活動を行っている。」「7 あなたの学校は、職場の福利厚生や健康管理について配慮がなされている。」については昨年度よりA評価の数値が向上している。教職員が綿密な計画を立て教育活動に取り組むと同時に、児童の実態把握を行い、次時の活動へ生かしていることが分かる。また、メンタルヘルスや健康管理の面では、教職員同士で声を掛け合いながら業務を遂行することで、風通しの良い職場環境を構成できたと思われる。

I-5 あなたの学校は、P→D→C→Aサイクルで、教育活動が取り組まれている。

H29

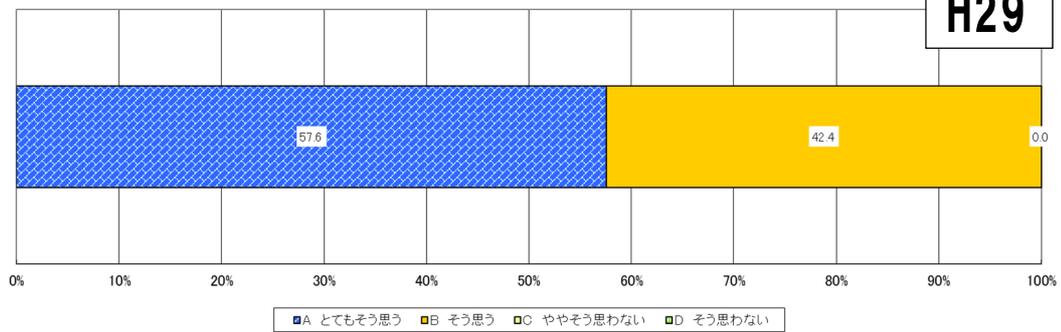


H30

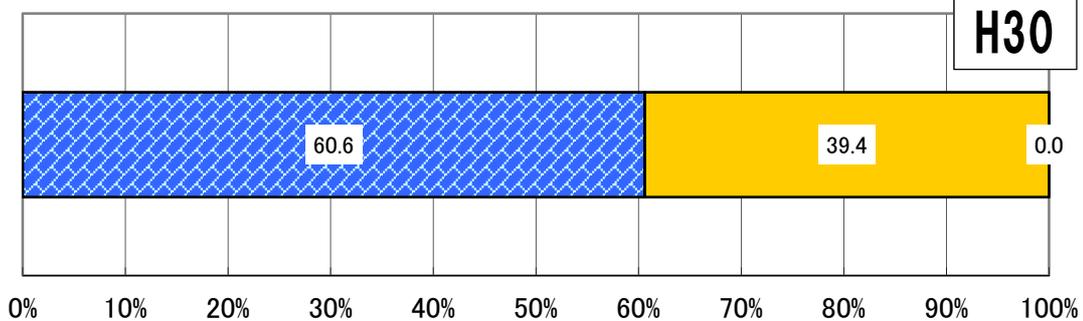


I-7 あなたの学校は、職場の福利厚生や健康管理について配慮がなされている。

H29



H30



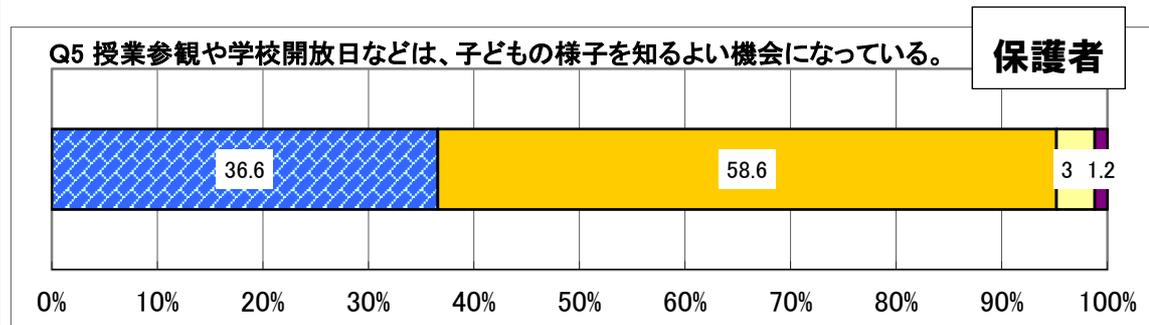
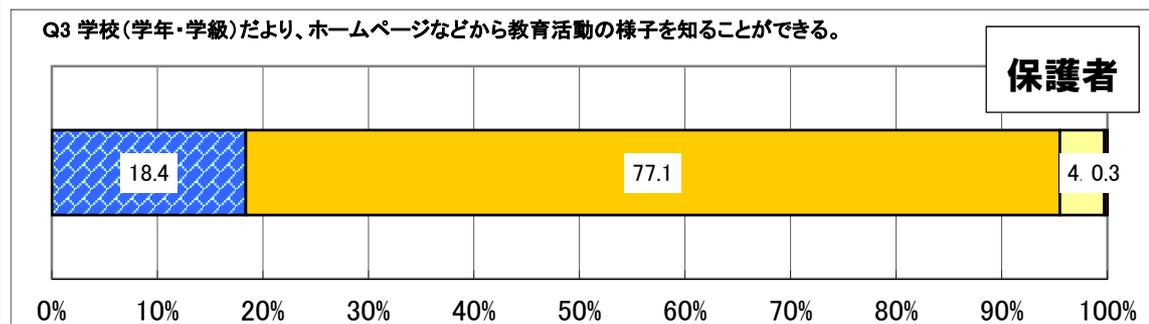
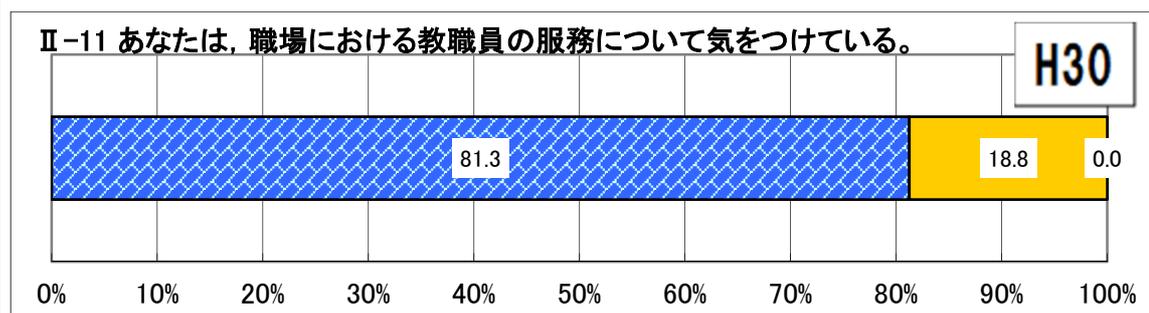
改善策
 自己評価から、「4 あなたは、学校の教育活動計画に基づき、実態に即した教育実践を行っている。」「6 あなたは、P→D→C→A サイクルを生かした教育活動を行っている。」「8 あなたは、児童の具体的な行動目標を意識して教育活動を行っている。」の設問では、A・Bで95%以上となっているものの、否定的評価もある。学校全体での教育活動の取組を、どう個人の活動へ反映させていくか、という点が今後の課題と思われる。学校での計画をより見つめると同時に、それぞれの職員がゆとりをもって、児童へ接しながら日々の教育活動を充実させていくことが望まれる。

II 学校運営について（保護者用アンケート等も含めて）

自己評価では、11問中8問で肯定的評価（A・B）が100%となっている。特に、「11 あなたは、職場における教職員のサービスについて気をつけている。」は、A評価が、81.3%となり最高値を示している。一方、「2 あなたは、危機管理（防犯、防災、事件、事故等）マニュアルを理解している。」「8 校内研究に主体的にかかわっている。」は、肯定的評価が全体としては高いものの、A評価が50%以下となっており、比較的B評価が多い結果になっている。

一方、保護者アンケート「1 お子さんにとって、学校は楽しいところだと思う。」「3 学校（学年・学級）だより、ホームページなどから教育活動の様子を知ることができる。」「5 授業参観や学校開放日などは、子どもの様子を知るよい機会になっている。」などの学校運営に関わる質問に対して、肯定的評価がそれぞれ95%近くの値を示しており、継続して良好な結果であるといえる。

達成状況



改善策

ここ近年、危機管理マニュアル等について職員間で理解が深まらないことが挙げられる。より児童の実態に即し、様々な社会状況や天変地異に対応する柔軟な対応力が問われているものと思われる。昨年度から実施していることとして、避難訓練時に薬持参の児童はランドセルを持たせたり、予告なしの避難訓練には職員の動きを細かく確認したりしてきた。それらの結果や反省を踏まえ、より分かりやすく素早く対応するためのマニュアルを作成する取組が必要となる。

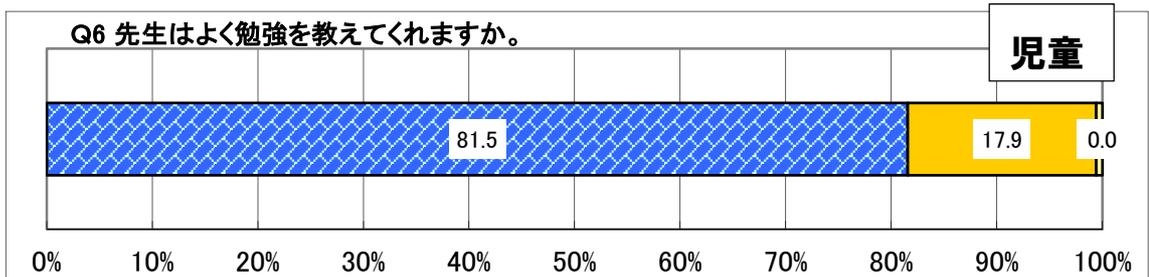
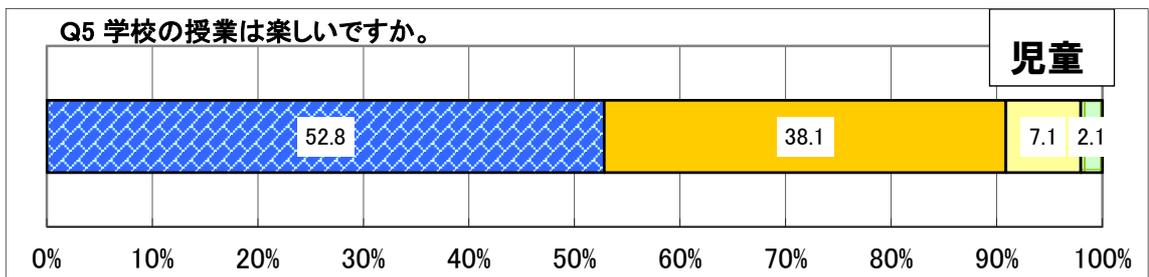
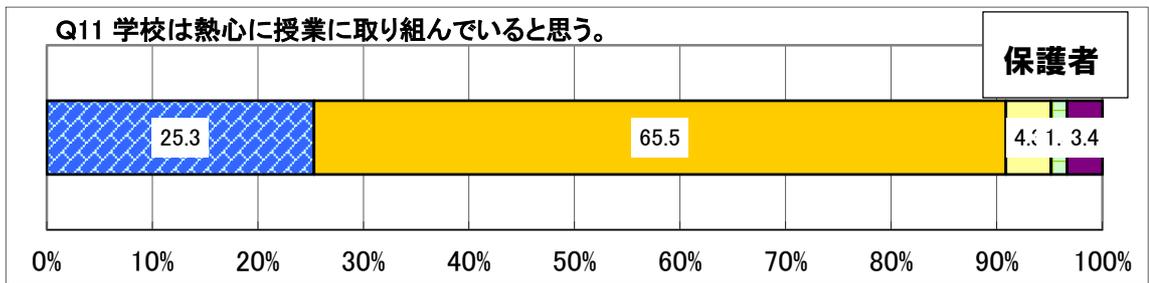
教職員の多忙化解消のため、より効率的な会議の運営を行いつつ、一人一人が学校運営に対して意識を高くもつよう、事前の打ち合わせなど職員間での情報交換を積極的に行う必要がある。また今年度公開研究会で得た研究成果を、職員全体で共有化していくことが大切であると考えている。

Ⅲ 学習指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）

達成状況

自己評価では、10問中7問で肯定的評価（A・B）が100%となっている。残りの問いについても90%以上となっており、教職員が日々の学習指導について高い意識をもって取り組んでいることが分かる。また今年度は公開研究会を実施し、研究主題「意欲をもって学び 未来を拓く子供たちの育成～『主体的・対話的で深い学び』をめざした授業づくりを通して～」にせまる授業改善が図られ、児童の学習意欲向上へとつながったことが結果からも分かる。

保護者アンケートからも、「11 学校は、熱心に授業に取り組んでいると思う。」は、肯定的評価が90.8%（昨年度89.4%）と90%を超える結果まで向上し、学校での取組が保護者へも着実に伝わってきていることを示した。そして児童アンケートからも、「5 学校の授業は楽しいですか。」の肯定的評価が90.9%（昨年度90.6%）、「6 先生はよく勉強を教えてくださいますか。」99.4%（昨年度98.2%）となっており、いずれも昨年度より結果が向上し、学習に対する意識が高いことを示した。



改善策

校内研究を経て、児童一人一人をどう見取るか、どう授業改善に取り組むか、これからも教職員一人一人がより研究を進めていくことが必要である。また、家庭との連携を視野に入れ、宿題や課題への取組にも力を入れていく。特に児童アンケートでは自主学習をしている項目と、宿題をしている項目との差が大きい。(肯定的評価で53.1%の差)授業の中で芽生えた学習に対しての興味関心を、どのように日常生活へ還元できるかという点にも着目する必要がある。そして「授業が(あまり)わからない」と回答した児童も、まだいることに注視しなくてはならない。きめ細かい指導のためのティームティーチングなどを進めていくためにも、児童一人一人の見取りを確実に行っていく必要性をより感じた。

また、職員の中には新学習指導要領に向けての外国語科への不安を感じている者もいる。ALTとの連携を定期的に行える時間を設ける必要がある。

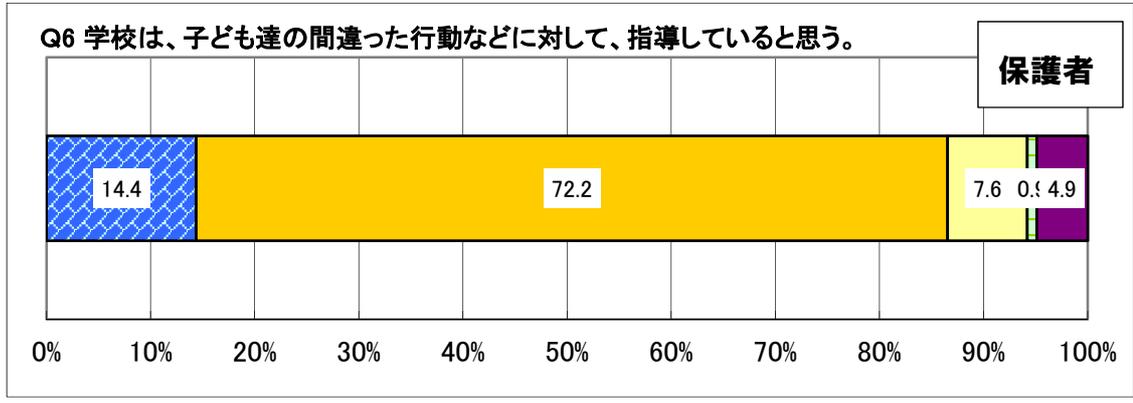
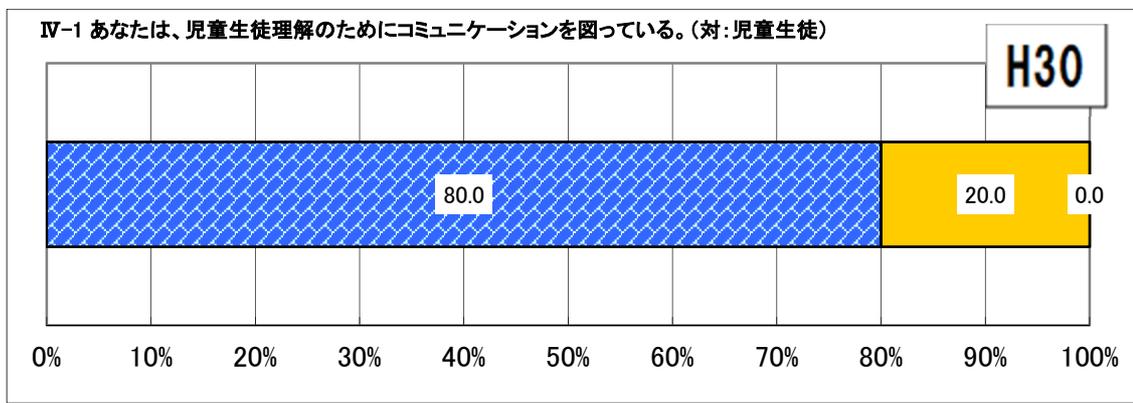
IV 生徒指導について(児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて)

生徒指導についての教職員自己評価は、設問8問中、6問において肯定的評価(A・B)が100%となった。特に、「1 あなたは、児童生徒理解のためにコミュニケーションを図っている。」の問いのA評価が69.0%から80.0%に向上しており、児童とのより良い関係が構築できていると言える。

保護者アンケートでは、「6 学校では、子ども達の間違った行動などに対して、指導していると思う。」の設問に対して肯定的評価が82.9%から86.6%へと向上しており、向上が認められた。

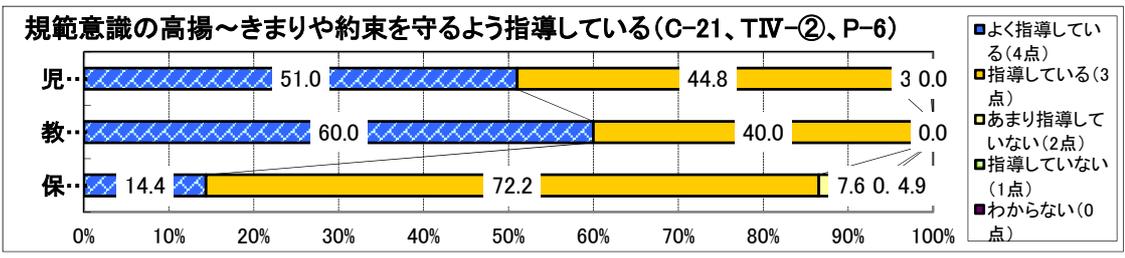
また、児童アンケートでは、「10 こまったことがあったら、相談できる先生がいますか。」の肯定的評価が81.5%、「18 地域の人と出会ったら、あいさつをしていますか。」が93.4%、「21 学校のきまりや約束ごとを守っていますか。」95.8%となり、昨年度同様に高い数値を示すこととなった。そして、「17 朝ごはんを食べて登校していますか。」の設問に対して否定的評価である「あまり食べていない。食べていない。」の児童が20名となり、わずかであるが昨年度より3名ほど改善された。

達成状況



改善策

児童の規範意識の高揚に関しては、児童、保護者、教職員ともに肯定的評価は高い数値を示しているものの、三者の意識には差が見られる。学校として指導していることを、今後もHPや学校だより、保護者との懇談などを通して共通理解を高めていく必要がある。



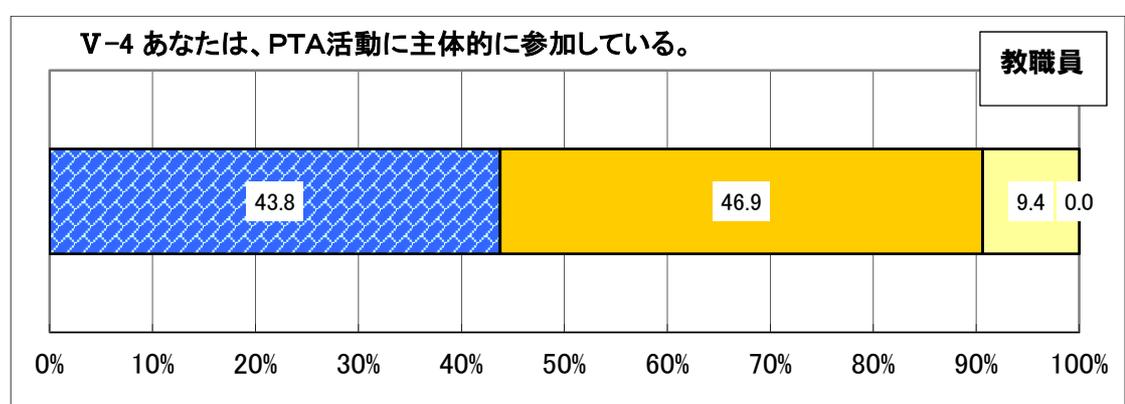
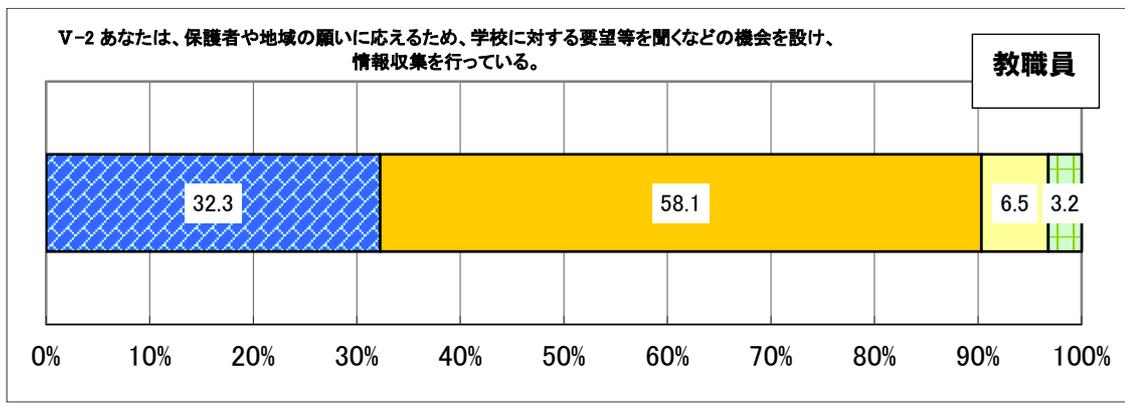
学校全体としては、生徒指導上の課題等は少なく安定している状況ではあるが、職員会議での「生徒指導上の情報交換」を活用して、教職員で情報を共有し「チーム南小」として様々な事案に対し、素早く柔軟な対応をしていきたい。今年度もコーディネーターを中心にSCの活用、ケース会議の実施、市の担当者などの外部機関との連絡など行ってきているので、より有効活用できるよう職員間での情報交換を積極的に行っていく。

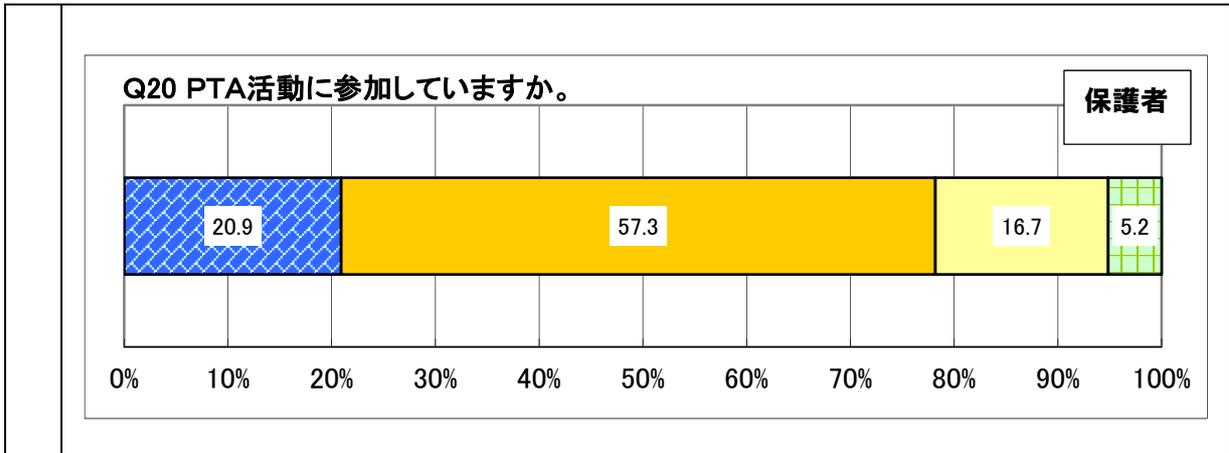
V 地域との連携について（保護者用アンケート等も含めて）

達成状況

地域との連携については、自己評価9問中4問で肯定的評価（A・B）が100%であった。残りの設問も肯定的評価は高かったが、「2 あなたは保護者や地域の願いに応えるため、学校に対する要望等を聞くなどの機会を設け、情報収集を行っている。」
「4 あなたはPTA活動に主体的に参加している。」などについては、肯定的評価は90%を超える程度であった。

保護者アンケートでは、「20 PTA活動に参加していますか。」の肯定的評価が78.2%と高い数値を示している。A評価については、20.9%となり、若干数ではあるが、改善傾向がみられている。

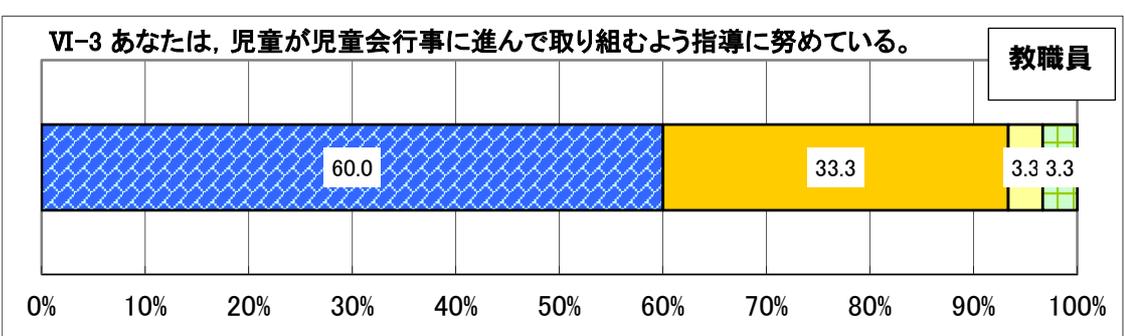
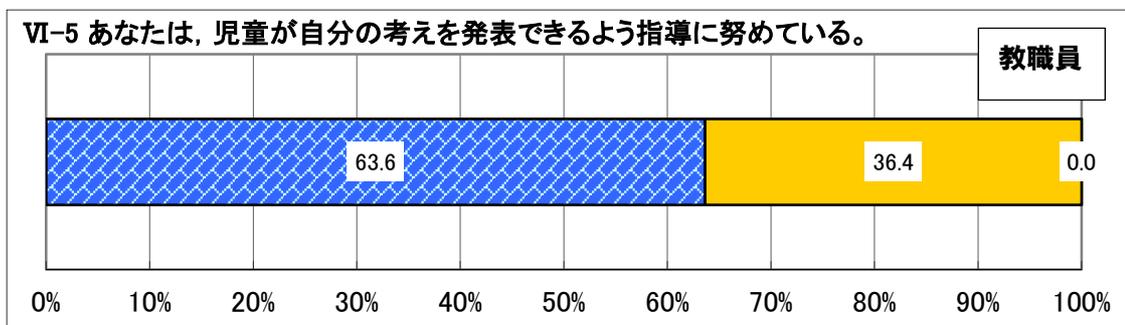




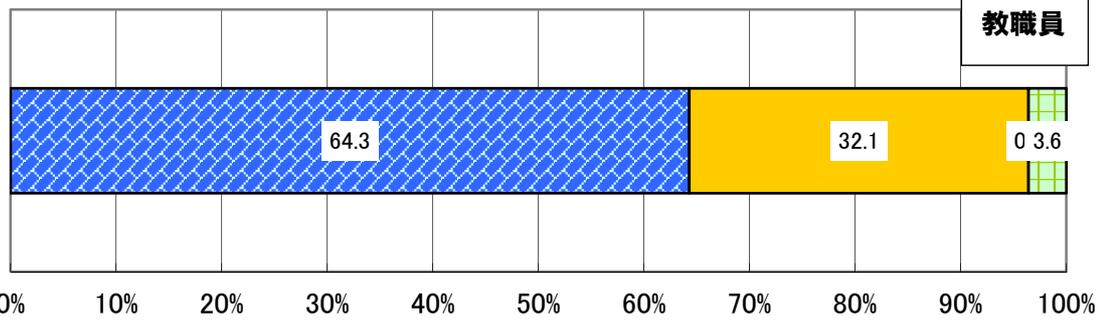
改善策
 今年度よりPTA活動の運営委員会を1回削減したことや、2学期に行われる親子早朝作業が天候不順で中止になり、教職員がPTAとして活動する機会が減少した。しかし、地域の人材を生かしたゲストティーチャー、ボランティアである「胞子の会」の方による田んぼや畑の取組など、今年度も積極的なかわりをもっている実践があり、学校としても児童の学習に大いに生かすことができている。学校の思いとともに、地域の願いも汲みつつ学校での教育活動を編成していく必要がある。すでに、今年度は地域防災の話し合いもスタートしており、地域と一体になって取り組む活動を、今後もより充実させていきたい。

VI 学校の特徴に関して（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）

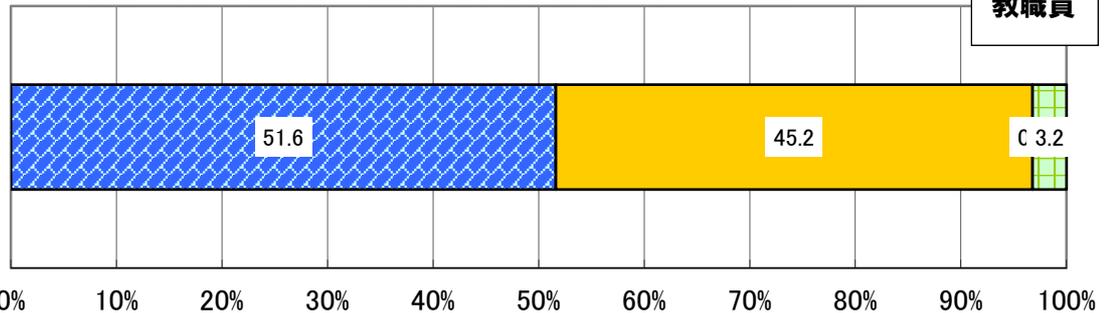
達成状況
 学校の特徴に関する8問中3問で肯定的評価（A・B）が100%であった。校内研究で取り組んでいたこともあり、「5 あなたは児童が自分の考えを発表できるよう指導に努めている。」ではA評価が63.6%と昨年度より6%の向上を見せた。他の設問でも90%以上の肯定的評価がある一方で、否定的評価が児童会活動、朝学習、朝読書、家庭学習についてはわずかであるが出ていることも挙げられる。



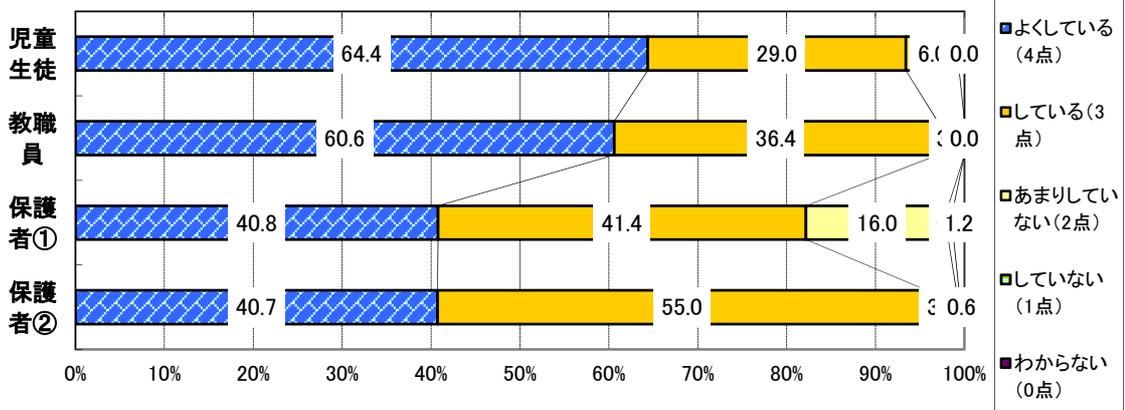
VI-6 あなたは、朝学習・朝読書の充実に努めている。



VI-7 あなたは、家庭学習が充実するように指導に努めている。



あいさつ活動～地域の人と挨拶をする/家庭で挨拶をする(C-18、TIV-①、P-18、P-17)



改善策

児童会行事の取組は、児童が実際に活動する場面までに多くの準備時間を要する。学校行事予定計画をいつでも視野に入れて、計画的な実施をしていくようにする。家庭学習に関しては前述にもあるよう、宿題と自主学習の差が表れている。授業の中で興味関心を高め、日常への転換が図れるような課題を設定していくとともに、PTA学年部会などの機会に、保護者へ家庭学習の啓発をより積極的に行っていく。

また、挨拶に関しては児童、保護者、教職員の比較をしてみると、それぞれの意識の差も感じられる。肯定的評価は高いが、より積極的な挨拶のためには、A評価の伸びが必要となる。児童会活動を活性化すると同時に、児童自身の意欲向上につながる手立てを身近なところから実践していくことが望まれる。

3 まとめ

〈成 果〉

教職員自己評価では、どの項目も肯定的評価が高く、全体的に達成できている。全教職員が学校教育目標達成に向かい、校長の学校経営方針の下に共通理解をして教育活動にあたっていることが確認できた。児童アンケート、保護者アンケートの結果についても、昨年度と同様な結果となり、全体的に肯定的評価の値が高いものが多い。

〈課 題〉

危機管理意識、授業改善に向けたより一層の取組、学力向上とそれに伴う自主学習への取組、外国語科に向けた準備、PTA活動への積極的参加、児童・保護者・教職員と意識の差などについて、改善の余地があることが調査より判明した。「チーム南小」として教職員間でいろいろな情報を共有し、課題に対して迅速にそして柔軟に対応していくよう心掛けたい。学校は、児童一人一人の満足度がより高まり、保護者にとって安心して児童を預けられるところでなくてはならない。また、地域の核としての役割を担うことも求められている。

今回の結果を踏まえ、様々な情報発信とともに、自ら地域の情報収集をしつつ、教育活動へ反映させていくことを積極的に行う。児童・保護者・教職員にとって、充実した日々を過ごすことができるよう、三者で協力しながら教育活動のさらなる推進をしていくことが大切である。